

# 行政視察報告書

令和2年1月21日

会派名 無所属クラブ  
会派代表者 堀 元  
(参加者：堀 元・大薮豊数)

行政視察の結果について、次のとおり報告します。

①

年月日	令和元年12月20日(金)
視察時間	13:00~15:00
視察先	京都府京都市 京都市南部クリーンセンター
視察項目	京都市南部クリーンセンター第二工場(バイオガス化施設)について

# 行政視察報告書

①

年月日	令和元年12月20日(金)
視察時間	13:00~15:00
視察先	京都府京都市 京都市南部クリーンセンター
視察項目	京都市南部クリーンセンター第二工場(バイオガス化施設)について

## ■目的

当市に開設予定のごみ処理施設について、ごみの燃焼熱を利用する発電に加えて、先進事例であるところの生ごみなどを発酵させた際に排出されるメタンガスなどを燃焼させ発電する施設や運営のノウハウなどを視察・研究する。

## ■内容

古文に読まれた数々の名山に囲まれ、盆地という条件も重なってか古より人の出す排泄物やごみなどの問題が課題であった京都の、ごみ問題に関して、地域の関心も高いと考えさせられる立派なごみ処理施設を見学させていただいた。

可能な限りごみから取り出せるエネルギーは絞ってでも取り出そうとするあくなき探求を目の当たりにし、これからのゴミ処理について考えさせられた。



さすてな京都外観



水素ガス自動車と電気スタンド

まずは施設に到着して驚いたのは、ごみ臭はもちろん、メタンガスなどの臭いも皆無であり、近くには普通に民家や工場のある一角に建物があつた。

煙突のような建屋があつたのでやはり多少はガスなどが発生しているのかと思つたが、それは展望施設であり有害ガスの発生はほとんど無いようだ。

主燃焼施設においては一日500トンのごみを処理し、発電効率20%という高効率ごみ発電設備によって、最大14,000kWを発電していた。



施設内ごみ搬入場所



ごみピット

燃えるごみとは別ルートで、メタンガスが発生する生ごみなどを一日60トン、タンクに貯め発酵させメタンガスを回収し、一日最大1,000kWを発電している。見学コースを歩き、いよいよバイオガス化のセクションに入った。説明パネルの後、見学ルートの窓の外に巨大なタンクが横たわっていた。



バイオガス化の説明パネル



発酵槽の一部

発酵槽では、生ごみなどを一定の日数触媒となる微生物の力によってメタンを主成分とするバイオガスを発生させる。このガスを発電機につながるエンジンを動かす燃料として利用する。

■所感

実に高効率なエネルギーの発生施設である。ここでの電力は、一般家庭の年間消費電力のおよそ2,000世帯分だそうだ。

国内にはこれらバイオマス処理施設は数か所あるそうだが、今後はさらに先進的なところで我が江南市のごみ処理施設では国内に例がないごみ処理熱を利用して発生した電力を使い、水素ガスを作り販売もできる施設ができると良いと考えた。

いずれにせよG7やSDGsなど環境問題を考えると、今後はメタンガスよりも水素であると考え。

※使用した画像はすべて個人が撮影したものを施設の許可を得て利用しています。